

会員数	36,738	(前月比) +114
郵送	8,834	(前月比) - 44
手配り	25,676	(前月比) +167
協同基金到達額	2,479,502,000円(1/31現在) [前月比 7,858,000減]	
協同基金出資者数	12,768名(1/31現在)	
いのちを守る助け合い募金額	1,950円(1/1~31)	



健康友の会みみはら 拡大代表世話人会議

健康でいきいき暮らせるまちづくり

実現めざし熱い議論

2月4日(木)10時からサンスクエア堺で健康友の会みみはらの来年度方針の骨格について討議する、拡大代表世話人会議が77人の参加で開かれました。
午前中の全体会では6つのブロックから日頃の友の会活動の報告がありました。報告後には活動についての質問も多く出ました。午後からは3つの分散会に分かれて、来年度方針についての討議や、日々の活動についての悩みなどについて意見交換が行われました。

友の会集中討議に参加して

鳳支部

石田 悦司

午前は各ブロックの活動報告から始まりその後、前田事務局長から来年度方針の骨格提案が出された。2020年ビジョンに向けて

の各種課題がある中で、特に注目したのは、①行政区ごとのブロック化②世帯会員から個人会員制③入金金制から基金制への移行に関する提案である。
午後からの分散会でも①②③が討論の柱となった。従来の院所中心のブロック構成から、行政単位の交渉のしやすさを考慮しての



包まれた一日だった。

老松診療所

山口佐知子

職員の出発者としてここ数年参加してきました。世話人さんの熱い思い「健康で生き生き暮らせるまちづくり」を考え、暮らしている姿にとてもエネルギーをもらいます。検討課題の「個人会員制」への移行は私もまだ理解不十分です。職員にも聞かれたら応えられるようにしないと考えます。

私たちは仕事に責任を持たなければなりません。しかし社会情勢や取り巻く環境を無視できない。共に病院を守り「住んでよかった」と言える立場で力を合わせ取り組むことの大切さを感じています。

担い手さん ご苦労さん会

和泉支部

配達に協力いただいたいる担い手さんの、日頃の労をねぎらい、交流を深める「担い手さんご苦労さん会」を、2月13日(土)にNPO法人安心ネットをお借りして開催しました。



コーヒーとケーキで配達の方々の苦勞や、月に1回健康づくりのために配達を

続けている方など、和やかに交流しました。第2部では「認知症にならないための学習会」を企画、認知症にならないための「脳いきいき5か条」や、和泉市の認知症対策の窓口、オレンジカフェの紹介もしながら楽しく学びました。

楽しみにしていた骨密度の検査は、機械の不調でできず、次回に持ち越しになりましたが、担い手さん、世話人合わせて、23人の参加で、楽しいひと時を過ごしました。(事務局)

聴診器

元氣な高齢者のハイキングで雪の金剛山に登った。大型の寒気団が来ているので西日本も大雪になる恐れがあると言われ、空の便は軒並み欠航していた。我々も中止かなと思いつつ、集ってみるとみんな行く気十分。空も晴れているし、風もない。他のグループも次々と登山道に入っていく。われわれもアイゼンを付けて雪の道を歩く。途中、鎖やロープ、木の根を持ちながら岩場を登る。スリルいっぱい。沢伝いに登るので、高齢者の我々はゆっくり、「どっこぞ、お先に」と道を譲りながら、コースタイムの2倍の時間をかけて登った。上に行くに従って雪は新しく、まだ人に踏まれていない。きゅっきゅとアイゼンで踏みしめる感触が「雪の山に来た」とうれしかった。若い参加者が2人。中国東北部、瀋陽と青島出身の美しい女性。瀋陽は昔の奉天と教えられて、「えー、私は奉天で生まれたのよ」とアさん。「引き上げが大変だったでしょう」私。「赤ちゃんだったからわからないわ」Aさん。若い2人は「氷の上を自転車で走っていたよ。でも雪の山は初めて、アイゼンも初めてだから」と楽しんでくれた。反省は天気予報が警戒を呼びかけている中を登ったこと。無事だったから良かったけど、天候が悪化していたら遭難。(山上佳代子)